日中の「酒」に関する諺に見る取り合わせ語句の対照比較考察

中国中央财经大学外国语学院　王　　雪
広島大学国際センター　浮　田　三　郎

1．はじめに

諺は古くから言い慣らわされ、日常生活の真理を凝縮した簡潔な表現である。諺は庶民生活の体験的な知恵から生み出されたものが多いが、古典に含まれた格言や故事などから出て、いつのまにか俗間に流布したものも含まれる。諺にはさまざまな比喩表現が含まれている。そしてそこには、ある事物とある物事（語句）を取り合わせた表現が織り込まれており、そこに人々のことば遊びの知恵のようなものから人生哲学的な考え方の結晶といったものまで見ることができる。関本（1983：26）は、「諺は、簡潔で、しかも含蓄のある表現の中に、庶民の生活の知恵を盛り込んだものであり、そこでは少ない単語で大きい効果をあげるために修辞法上のさまざまの技法が用いられている」と述べている。日中両言語の諺から見た取り合わせ語句をめぐって、対照比較してみると、両言語の諺における国民がどんなことに関心を持っているかということを認識することができる。

本稿では、両言語の諺に見られる取り合わせ語句を対照比較考察することによって、両言語の諺に見られるそれぞれの言語社会の背景、生活様式、風俗、文化を、そしてそれを背景にした表現の特徴と類似点や相違点を明かにすることを目的とする。また、それにより、我々がそれぞれ両言語の表現の豊かさに注目するだけでなく、諺の意味解明や、諺の内層的な意味の理解をさらに深めることができるようになればと思う。

2．考察対象と方法

まず、日本語の諺の用例は『故事・俗信ことわざ大辞典』（尚学図書編集、1981）を資料に、諺を取り出す。この大辞典は専門事典としてこれまでにみられない規模のものとなっている。一方、中国語の諺は、温端政などが編集した『中国谚语大全』（2004）を中心に、諺の用例を取り出した。この辞典は、約十万項目の諺を集録している。中国の現代諺辞書において、諺の数で最も規模の大きい諺辞典である。その中で、日本語の「酒」に関する諺をSJという符号をつけ、168句を抽出し、中国語の「酒」に関する諺をSCという符号をつけ、111句を抽出した。「酒」は日中両国の国民にとって、最も身近に感じ、日常生活の中でよく飲まれるものであり、これらの諺に見られる表現の仕方を見てみると、普段人々が考えている生活の知恵や教訓も窺える。考察方法として、両言語の酒に関する諺に現れる語句は事項別に、動植物、衣食住、人、時空、身体、抽象及び行為の六項目に分けて、それぞれ諺の中でどのように使用されているかを検討してみる。また、両国の国民にどの

ような言葉が使われる表現が親しまれているかということも明らかになる。

3．両言語の「酒」に関する諺に見られる取り合わせ語句の特徴

諺の中で、様々な取り合わせ語句が諺の中で現われることによって、人間がこれらの諺を創作する時、大切に思ったり、親しんだりしていることがどんなことであるかが窺える。具体的に今回の分析にあたり、諺に両言語の各項目を表わす取り合わせ語句の特徴は、共通するところもあれば、相違するところもある。

3.1　動植物を表す語句

3.1.1　動物

（日）SJ1「買酒と牛の尾は届き次第」、SJ2「杯にボウフラが湧く」、SJ3「酒飲んで死んだ者は泥鰌ばかり」、SJ4「泥鰌でもあるまいに滅多に酒で殺されまい」、SJ5「猩猩に酒の壷」、SJ6「酒に酔うて虎の首」、SJ7「酒の席には狆、猫、婆」、SJ8「雀の酒盛り」、SJ9「酒の酌九分に酌げよ、夜八分船七馬六子供五分五分」、SJ10「蕎麦の花は蜂の酒」、SJ11「酒を飲むこと鯨鯢の潮を呑むが如し」

（中）SC1「吃饭不说话，酒醉不骑马」SC2「壶中无酒难留客，池中无水难养鱼」、SC3「酒能激出心里话，网能捕出水里鱼」、SC4「喝酒不要过量，用牛不要过度」

3.1.2　植物

（日）SJ10「蕎麦の花は蜂の酒」、SJ12「食酒は貧乏の花盛り」、SJ13「酒なくて何の己れが桜かな」、SJ14「林間に酒を煖めて紅葉を焼く悪い酒」、SJ15「夾竹桃の咲いている間は酒の火落ちに油断がならぬ」、SJ16「萩の盛りによき酒なし」

（中）SC5「好酒食一滴，好花插一枝」SC6「好酒饮到微醉时，好花看到半开时」SC7「三杯美酒唇边过，一树桃花脸上开」

「動植物」を表わす取り合わせ語句に関し、両言語の諺では、共に、「牛」、「馬」のような家畜が見られる。それは、両国が農耕民族であることの証明である。一方、両言語の諺の間で、それぞれ異なる所も見られる。日本語の諺では、海の動物、山の動物、昆虫などが含まれるメタファーが用いられ、酒席の有様と酒を飲む礼儀が語られている。中国語の酒に関する諺に現れる語句は、中国人に親しまれる牧畜類と家畜類の動物と魚類（主に川の魚）である。酒に関する諺に現れる動物の語句を通して、日本語のほうでは、種類豊富な動物の名前が諺に出ていることが窺える。

「植物」を表わす取り合わせ語句に関し、両言語の諺では、「花」の総称が見られ、一方、日本語の諺では、季節ごとに現われる代表的な花「桜」と「紅葉」といった季節を表わす風物を用いて、酒を飲むのは楽しいことであると表現している。その上、季節感に溢れる春の桜と秋の紅葉を代表的な植物として、酒との取り合わせで、日本人はどれほど自然を大切にするかが窺える。それに対し、中国語の酒に関する諺に、総称の「花」と「桃の花」が見られる。中国は国土が広いため、各地の気候も変化が激しく、花と言えば、単

なる一種の花を意味することではなく、地方によって、花のイメージも異なると思われる。酒飲みの適量、酒を飲むことに反映されている中国人の美意識と酒飲みの姿などが見られる。両言語の酒に関する諺を組み立てている動植物の語句は様々である。諺に含まれている動植物の語句は直接的にまたは間接的に酒と関係がある。

3.2　衣食住を表す語句

3.2.1　衣

（日） SJ17「酒飲みの尻切れ襦袢」、SJ18「下戸は上戸の草履取り」、SJ19「酒飲む女は湯巻きはずしてでも飲む」、SJ20「酒は酒屋にあり、布子は質屋にあり」

（中） SC8「喝酒莫说花钱少，三月不喝做件袄」

3.2.2　食

1）朝酒と早酒（朝酒）

（日） SJ21「朝酒は門田を売ってでも飲め」、SJ22「朝酒は女房を質に置いても飲め」、SJ23「五割の金を借りても朝酒は飲め」、SJ24「朝酒は後を引く」、SJ25「朝酒は三杯御神酒のお下がり」、SJ26「朝酒はじれのもと」、SJ27「朝酒はその日のどら」、SJ28「朝酒と朝寝は貧乏の近道」

（中） SC9「三杯早酒，一日威风」

2）冷酒と冷酒（冷酒）、滚酒（煮え酒）

（日） SJ29「親の意見と冷酒は後で効く」

（中） SC10「热酒伤肺，冷酒伤胃；冷热适度，少喝为贵」、SC11「喝冷酒，使官钱，终究是祸害」、SC1「冷酒伤命」、SC17「滚酒伤身，恶语伤人」

3）濁酒と清酒（清い酒）

（日） SJ30「濁酒も茶よりは勝る」

（中） SC18「清酒红人面，白财动人心」

4）煎り酒、生姜酒、焼酎と焼酒（焼酎）、雄黄酒（雄黄酒）、黄酒（醸造酒）、桂花美酒（モクセイの酒）

（日） SJ31「煎り酒は九二一が伝」、SJ32「根深雑炊生姜酒」、SJ33「糟から焼酎」

（中） SC13「烧酒黄酒一般醉」、SC14「烧酒米做，人心肉做」、SC15「成不成，媒人烧酒两三瓶」、SC16「喝烧酒，到汾州」、SC19「喝了雄黄酒，百病远远丢」、SC20「烧酒黄酒一般醉」、SC21「桂花美酒惹人爱，喜庆宴会少勿来」

5）甘酒

（日） SJ34「ここまでおいで甘酒進じょ」、SJ35「甘酒箸に刺す」、SJ36「甘酒になって来る」、SJ37「甘酒に酔うたおたふくのように」、SJ38「甘酒屋の釜前の面」、SJ39「甘酒屋の上手」、SJ40「甘酒屋の荷」

6）陈酒（貯蔵酒）、新酒（新酒）、老酒（古酒、紹興酒）

（中） SC22「陈酒味醇，旧交情深」SC23「老酒取其醇，新酒取其香」SC24「老酒要喝高粱烧，老婆要讨拱宸桥」

7）剣菱七つ梅と潞州酒（潞州酒）

（日）SJ98「酒中国に江戸女、住まい京都に武士薩摩」、SJ173「酒は剣菱七つ梅」[1]

（中）SC25「潞州的酒，女人的手」

8）御神酒と供酒（供え酒）

（日）SJ25「朝酒は三杯御神酒のお下がり」、SJ118「下戸の建てたる蔵は無く、御神酒あがらぬ神は無し」

（中）SC26「身后供酒万千盅，何曾一滴进嘴中」

9）闷酒（やけ酒）、美酒（美酒）

（中）SC27「闷酒难饮」、SC28「闷酒易醉」、SC29「美酒不过量，好菜不过食」、SC30「桂花美酒惹人爱，喜庆宴会少勿来」

10）主食

（日）SJ41「亭主の心遣いは飯酒雪隠の三つ」、SJ42「酒飯雪隠」、SJ43「根深雑炊生姜酒」

（中）SC31「米面夫妻长，酒肉朋友短」SC32「觥饭不及壶飧」

11）酒肴

（日）SJ44「奈良漬け[2]に酔う」、SJ45「下戸の粕汁[3]」、SJ46「酒は肴、肴は気取り」、SJ47「酒の肴は三風[4]見立て」、SJ48「酒は燗、肴は刺身、酌は髢」、SJ49「こうぐり[5]膾で酒三升」、SJ50「蛸の入道酒菜の朝臣八足」

（中）SC31「米面夫妻长，酒肉朋友短」SC33「吃酒不吃菜，必定醉得快」、SC34「酒肉穿肠过，佛爷当中坐」SC35「吃人酒肉，塞自牙缝」、SC36「饱时酒肉难入口，饿时吃糠甜如蜜」、SC37「酒肉面前朋友假，患难之中朋友真」、SC38「好酒好肉待女婿，好粪好肥上秧田」、SC39「冷狗肉，热冬酒，不怕冷得难出手」、SC40「狗肉上不了宴席」[6] 1SC41「酒怕牛肉饭怕鱼」

12）餅[7]

（日）SJ51「男の子は餅で育て、女の子は酒で育て」、SJ52「酒蔵あれども餅蔵無し」、SJ53「餅に遇え、酒に遇え」、SJ54「大食上戸の餅食らい」

13）調味料

（日）SJ55「徳利[8]に味噌詰めるよう」、SJ56「醤油土用に酒寒に」

（中）SC42「世上三行苦：蒸酒、熬糖、打豆腐」

---

[1] 『故事・俗信ことわざ大辞典』（1981：486）によると、「『酒は剣菱男山』ともいう。「剣菱」「男山」は摂津国（兵庫県）伊丹から産する上等の酒。「七つ梅」は、同じく摂津国池田から産する上等の酒」であると述べている。

[2] 「奈良漬」：奈良県の名産漬物。ウリを主として野菜の粕漬けの総称。岡田（2003：342）

[3] 「粕汁」：酒粕を入れて作った汁物である。実には塩ざけ・塩ブリなどの塩魚に大根・人参・里芋などの野菜を入れる。西谷（2005：110）

[4] 『三風』は「風土、風味、風景」を意味し、酒席料理として発達した日本料理の出発点が、この「三風」にあったという。風土とは、とれた場所、作られた土地のことである。風味とは、いつとれたのか、旬のものであるかどうかということである。風景とは、取り合わせや盛り付けのことで、出来上がった料理の見た目の美しさをいう。永山・川嶋（1988：144）

[5] 「コウグリ」：新潟地方の方言である。カワハギ科の魚で、体は菱形をしており、皮は厚く剥いで料理する。西谷（2005：113）

[6] 諺SC40に「酒」がないが、王湘仁（2001：250）は「『酒がなければ席をなさず』、『酒がなければ礼をなさず』。宴席の会食では、酒が必要不可欠ということができるので、酒宴ともいう。多くの場合、宴会では主旋律を奏でるのは酒である」と述べている。

[7] 「餅」：モチ米を蒸して臼で搗き、さまざまな形にまとめた食べ物である。古くは聖なる食べ物の代表であった。岡田（2003：449）

[8] 「徳利」：元々酒・醤油・酢などを入れておく容器をいう。次第に、酒の貯蔵・輸送・飲酒の目的に用いるようになる。岡田（2003：317）を参照。

14）　器具

（1）酒を盛る器具――徳利・瓢

（日）SJ55「徳利に味噌詰めるよう」、SJ57「一升徳利こけても三分」、SJ58「一升徳利に二升入らぬ」SJ71「一升入る瓢は海へ行っても一升」

（中）SC43「酒壶嘴，触倒人」

（2）酒を飲む酒器――杯

（日）SJ59「色好まぬ男は玉の杯底無きが如し」、SJ60「口が杯と親しくなれば身代は貧乏と親類となる」SJ61「杯に推参無し」、SJ62「杯にボウフラが湧く」、SJ63「杯は畳の模様でない」、SJ64「身代と杯は大きいほど良い」、SJ65「妹背の杯」、SJ66「順の杯」、SJ67「流れの杯」、SJ68「名残の杯」、SJ69「最後の杯」

（中）SC32「觥[9]饭不及壶飧」、SC44「酒杯一端，政策放宽；筷子一提，可以可以」、SC45「秤砣虽小压千斤，酒杯虽小淹死人」SC46「酒杯虽小淹死人，筷条不粗打断腰」SC47「酒杯虽小胜大海，淹死多少贪杯人」SC48「酒盅虽小淹死人，香烟虽细毒死人，筷子不粗打断筋」

15）他の器具

（日）SJ35「甘酒箸にさす」、SJ70「左団扇に日酒を飲む」

（中）SC46「秤砣虽小压千斤，酒杯虽小淹死人」、SC47「酒杯虽小淹死人，筷条不粗打断腰」、SC49「空肚吃富酒，泻来像漏斗」

3.2.3　住

（日）SJ41「亭主の心遣いは飯酒雪隠の三つ」、SJ42「酒飯雪隠」、SJ52「酒蔵あれども餅蔵無し」、SJ72「下戸の建てた蔵はない」、SJ73「後ろに柱、前に酒」、SJ74「台所酒は良い付き合いできず」

（中）SC50「酒醉不入房」

酒と取り合わせて使われている「衣食住」に関する語句に関し、日本語の諺では、「衣」と「住」を示す語句が多く見られる。その中で、「衣」には、日本の昔の着物を表す語句がいくつか見られるが、中国では、現代の着る服を表す語句が一個しか見られない。「住」に関しては、いくつか酒と関連のあるポイントを取り上げている。客を招待する時には、「雪隠」をきれいにし、「台所」は正式の場所ではないため、上手な付き合い方を学ぶことができない。しかし、中国語の諺では、酒を飲んだら、「房」（部屋）に入って寝てはいけないと勧告している。

そして、中国語の諺では、「飲」と「味」を示す語句が多く見られる。特に、「飲」の中で、酒の名称が多く見られ、酒の種類に言及する諺は中国語のほうが日本語の諺より多いのである。それは、中国は国土が広いため、地域ごとに、作られている酒もおのおのであ

---

[9]　王湘仁（2001）は「觥」が中国殷代の貴族が酒を飲む器である。獣の角で作られたもので、殷代には酒器が非常に重んじられ、死後に埋葬するときにも遺体の近くに配したということである。貴族の地位や等級の区別は、主に酒器に体現されているとは述べている。

る。酒は食事の時に欠かせないものとして、酒肴、酒宴と密接な関係にある。ただ、日本語の諺では、海の魚類と蛸類を酒肴にし、中国語の諺では、陸地の動物を酒肴にする場合が多いと表している。また、酒の名称に関しては、両言語の諺で、共通する酒の名が窺えるが、相違する酒の名も窺える。同じ酒の名は次のようにまとめることができる。「朝酒」は魅力的であると両国の国民に思われている。「冷酒」も両国ともあるが、日本では、冷酒のアルコールは後で効くと、中国では、体を傷つけるので、気をつけろと示唆している。日本の諺では、「焼酎」の強さ、「古酒」のおいしさ、中国語の諺では、焼酎が縁談のときに欠かせないもの、焼酎の名産地、古酒のおいしさなどを述べている。相違する酒の名について、日本語の諺では、製造方法によって、名づけられる酒がある。例えば、「煎り酒」、「生姜酒」など。中国語の諺では、酒の置かれる時間によって名づけられる酒がある。例えば、「貯蔵酒」、「古酒」など。人間の気持ちを表わす酒の名も見られる。また、日中両国とも、酒を飲む時間、酒の温度、酒の味、酒の成分によって、名づけられた呼び名がある。興味深い点では、どんな呼び名であるかは日中の諺において、同様であるものもあれば、違っているものもあるという点である。酒の作り方で名づけられた酒の呼び名は日本の諺にしかない。それに対し、酒の置く時間、酒の産地、酒の用途によって、名づけられた呼び名が中国語の諺にある。諺を創作する両国の民衆は身近な食べ物を題材にし、酒と食べ物との関係を諺の中に巧みに織り込んでいる。このように、日本は農耕民族であるだけでなく、魚介類も盛んに食べている海洋民族であることを示唆する。逆に、中国は一面だけ海に臨み、他の三面は大陸であり、食物として、多く穀物や家畜の肉を摂取する農耕民族であることもうかがい知ることができる。

一方、「器具」を表わす取り合わせ語句に関しては、両国では共に、酒を盛る「徳利」、酒を飲む「杯」、「箸」などを使っているので、そういうことも諺の中に反映されている。「杯」は酒を盛る円形の容器とはいえ、諺の中でほとんど「酒」という意味として使われている。諺の意味に見られる相違点として、日本語の諺の「杯」に含まれる三種類の「杯」が窺える。それは、結婚する時に祝いの杯、送別に酌み交わす杯、酒宴を開く時順番に回す杯である。一方、中国語では「杯」のことを「酒杯」と呼び、諺の中で「酒杯」が「食事」の意味として用いられている。また、共通点として、両言語ともに換喩という修辞法が使われているところは興味深い。酒器を除き、酒との取り合わせで現われている器具として、日本語の諺では、「箸」、「左団扇」を、中国語の諺では、「筷子」（箸）、「秤砣」（分銅の秤）、「漏斗」（漏斗）、「壺」（壷）を取り上げている。両言語の諺では、それぞれ器具に関する異なる語句が見られる。日本語の諺では、酒に「箸」をさすことによって、無用なことに喩えている。「左団扇」は安泰な生活を象徴している。中国語の諺では、対句形式で、「秤砣（秤の分銅）」、「筷子（箸）」と「酒杯（杯）」との取り合わせによって、小さいものでも、大きな役割を果たすと示唆している。

また、「住居」を表わす取り合わせ語句に関し、日本語の諺では、家屋の各部分と酒の

取り合わせによって、酒を飲む人の気持ちなどが表現されている。中国語の諺では、家屋を借り、酒を飲む人が気をつけるべき健康法が表現されている。両言語の諺では、住居と関連するものを借り、酒との関係を婉曲的に表現し、酒の魅力、酒で結ばれる人間関係などが諺の中に見られる。

3.3　人体の一部を表す語句

3.3.1　頭部

（日）SJ75「酒が入れば舌いず」、SJ76「酒が言わせる悪口雑言」、SJ77「上戸の額と盆の前」

（中）SC26「身后供酒万千盅，何曾一滴进嘴中」、SC35「吃人酒肉，塞自牙缝」、SC36「饱时酒肉难入口，饿时吃糠甜如蜜」、SC51「酒红人面，财动人心」、SC52「吃酒不怕面红」、SC53「宁吃开胃汤，不喝皱眉酒」、SC54「常将酒匙开眉锁，莫把心机织鬓丝」、SC43「酒壶嘴，触倒人」SC55「酒头茶脚」、SC56「酒是软口汤」

（日）SJ78「弓力酒腹碁分別」SJ79「鏡は容貌を見せ、酒は心を現す」

（中）SC49「空肚吃富酒，泻来像漏斗」、SC10「热酒伤肺，冷酒伤胃；冷热适度，少喝为贵」、SC57「酒喝多了伤心肺，盐吃多了伤脾胃」、SC58「酒落欢肠千杯少，酒落愁肠烦恼多」

3.3.3　四肢部

（日）SJ80「酒買って尻切られる」、SJ81「上戸の手弱」、SJ82「下戸の手強」、SJ83「酒飲みは半人足」

（中）SC25「潞州的酒，女人的手」、SC59「酒是高粱水，醉人先醉腿」

3.3.4　その他（全身に関わる部位）

（日）SJ84「酒三杯は身の薬」、SJ85「薬の灸は身に熱く、毒な酒は甘い」、SJ86「酒の爛は人肌」SJ87「良い酒はよい血をつくる」

（中）SC60「十分酒量吃了七八分，健脾活血养精神」、SC61「酒不顾身，色不顾病，财不顾亲，气不顾命」

人体部位としての頭部、胴体部、四肢部、全身部を表わす語句を四つの部分に分け、対照比較してみると、人体を表わす語句は諺の中で、微妙な比喩表現をなしている。そこで、諺の中で、どんな語句が用いられるか、どのように比喩素材として働いているかを考察してみる。金田一（1957：134-136）は日本語の中で、人体に関する語彙を次のように述べている。「人体に移ると、日本語の語彙は俄然貧弱さを表す。一般に身体部位のちがいに対して日本人はきわめて大まかである。（中略）体の内部の名称になると、日本語はさらに貧弱である」。日本語の酒に関する諺にも、人体を表わす取り合わせ語句が少ないことが反映されている。具体的に見てみると、まず、頭部の語句に関し、日本語の諺では、酒と「舌」、「額」の関係によって、酒で人をしゃべらせたり、体が熱くなったりすることが見られる。中国語の諺に見られるのは、酒と「牙縫」（歯と歯の隙間）の関係において、酒を賄賂に喩え、自分の懐に入れることである。酒に関する両言語の諺に見られる頭部の語句においては、両言語の諺における共通点と言えば、口は酒との関係に言及し、酒を飲むと、人が何でもしゃべるようになるということである。ただ、微妙な相違点として、日

本の諺では、酒を飲むことによって、人の悪口をいろいろ口に出す傾向があることに対し、中国語の諺では、酒を飲むと、口も軽くなり、人の秘密をしゃべることである。酒と「舌」、「額」の取り合わせでは、日本語の諺に見られるのは酒で人をしゃべらせたり、体が熱くなったりすることである。酒と「牙縫」（歯と歯の隙間）の取り合わせでは、中国語の諺に見られるのは、酒を賄賂に喩え、自分の懐に入れることである。それに、酒と「面」（顔）、「眉」（眉）の取り合わせでは、酒は顔を赤くしたり、眉をしかめるような暗い気持ちを明るくしたりする効用を持つと語っている。

胴体部の語句に関し、両言語の諺では、共通点として、共に酒を飲むことによって、人間の感情や気持ちも表に出すことが多いので、酒と感情、機嫌との関係を述べていることである。相違点として、日本語の諺では、酒と「腹」の大小と関係がないと述べ、中国語の諺では、酒の飲みすぎと酒の性質によって、熱い酒で肺を傷つけたり、冷たい酒で胃を傷つけたりすることになると述べ、内臓を損ねる可能性があると酒と養生の関係を述べている。昔の中国人は、喜びと悲しみは体の腸に宿っていると思っているので、「愁肠（憂い腸）」「欢肠（喜ぶ腸）」という表現で気持ちを表わしている。林（2002:292）は「感情とは、人間の内部世界における心の動きの現れである。そのため、感情は『顔』や『目』『口』など、表情とかかわる身体部位によっても表すことができるが、このような調節的な身体部位のことを別にすれば、感情に関する表現はほとんど人間の内部臓器と深い関係があるようである」というように、胴体部と感情の関係を述べている。

四肢部の語句に関し、日本語の諺も中国語の諺も同じく「手」、「足」が使われているが、しかし、諺の意味として、日本語の諺では、「手」と「足」の慣用表現が比喩的な意味として用いられ、中国語の諺では、女の「手」で酒の味に喩え、酒は足の力が失うことに働きかけると述べている。

全身部の語句に関し、両言語共に、「身」によく、よい「血」を作るという酒の養生効果に言及している。日本語の諺では、また、酒をおいしく飲む温度を人間の「肌」に喩えている。

両言語の諺では、異なる取り合わせ語句が多く見られる。その中で、日本語の諺では、各部位を表わす語句が平均的であるが、中国語の諺では、頭部と胴体部を表わす取り合わせ語句が多く見られる。そして、酒を飲むことによって、血行もよくなることを共通点として扱っている。相違点として、日本語の諺では、酒の質を、中国語の諺では、酒の量を強調していること、また、日本語の諺では、酒の温度を人肌の温度で喩えるが、このようなことは中国語の諺には見当たらないことがあげられる。

3.4　時空を表す語句

3.4.1　自然と時間

（日） SJ88「酒は情けの露雫」、SJ89「月雪花に酒と三味線」、SJ90「酒屋の歳暮でかすばっかり」

（中） SC62「腊月有雾露，无水做酒醋」

3.4.2　空間

1）酒屋

（日） SJ91「酒屋へ三里、豆腐屋へ二里」、SJ92「酒屋三代、女郎屋一代」、SJ93「酒は酒屋、餅は餅屋」SJ94「酒は酒屋に、茶は茶屋に」、SJ95「酒屋の酒持って来い」、SJ96「情けのさけより酒屋の酒」SJ97「居酒屋の爛徳利」

（中） SC73「吃酒的望醉，放债的图利」、SC74「不吃酒的脸不红，不做贼的心不跳」、SC75「喝酒的不知醉，下棋的不服输」、SC76「酒鬼对酒鬼，天下无是非」、SC77「酒鬼见酒脚步收，刀架头颈喝三口」、SC78「不要跟酒鬼啰嗦，不要和懒汉合作」SC79「醉汉不说误事」SC80「醉汉心里明」

2）酒の名産地

（日） SJ98「酒中国に江戸女、住まい京都に武士薩摩」

（中） SC16「喝烧酒，到汾州」、SC25「潞州的酒，女人的手」、SC67「不吃奔牛酒，枉在江湖走」

（三）その他

（日） SJ99「これから酒の壇の浦」、SJ40「亭主の心遣いは飯酒雪隠の三つ」、SJ41「酒飯雪隠」SJ51「酒蔵あれども餅蔵無し」、SJ72「下戸の建てた蔵はない」、SJ73「後ろに柱、前に酒」SJ74「台所酒は良い付き合いできず」

（中） SC50「酒醉不入房」、SC68「酒杯能掷过省，拳头打不过墙」、SC69「长夜酒能淹社稷」SC70「好酒必有佳泉」、SC71「锦堂客至三杯酒，茅舍人来一盏茶」、SC72「酒好不怕巷子深」

酒と取り合わせのある自然を表わす語句に関し、両言語の諺とも、「露」が見られる。日本語の諺では、暗喩で酒を飲んだ人の感情を露雫に喩えている。一方、中国語の諺では、「霧」と「露」が旱魃になる可能性があることから、酒造りに影響を与えると述べている。即ち、自然環境は酒造りに影響を及ぼすのである。また、時間を表わす語句では、両言語の諺とも、年末に言及する言葉、すなわち、日本では「歳暮」が、中国では「腊月」が現われている。

そして、空間を表わす酒との取り合わせ語句については、「酒屋」、「酒の名産地」、「その他」というように分類してみた。両言語の諺ともに「酒屋」が多く見られるから、普段民衆の日常生活の中で、深い関心が持たれていたと思われる。

日本語の諺では、「酒屋」、「居酒屋」が見られる。日本では、酒を売る店、あるいは、酒を飲む店を「酒屋」や「居酒屋」と呼んでいる。また、諺の中では、対句形式で、「酒屋」と「豆腐屋」、「酒屋」と「女郎屋」、「酒屋」と「餅屋」、「酒屋」と「茶屋」との対照によって、様々な暗示、あるいは合意が表されている。酒の名産地として、「中国」地方という地域が見られている。一方、中国語の諺では、酒を飲む店を「酒店」、「酒场」といっている。酒の名産地としては、それぞれ地方的な特色のある酒の名産地の名前が挙げられている。「その他」において、日本語の諺では、「壇の浦」、「雪隠」、「蔵」、「柱」、「台所」といった語句が見られる。言葉の駄洒落として、用いられるのは「壇の浦」である。一方、中国語の諺では、空間と関係のある語句には、具体的で人が住む空間の「房」、「场堂」、

「茅舎」、「巷子」等が見られる。また、中国における行政区画の最上級単位である「省」、国家を代表する「社稷」、良い酒を醸造する条件の一つ「佳泉」などが取り上げられている。「巷子」は中国式の建造物における特別な風物である。「時空」を表わす語句に関しては、両言語の諺では、共に酒を飲む場所（空間）を表わす「酒屋」が多く見られる。一方、日本語の諺では、自然現象（月・雪）は酒との取り合わせで、酒を飲む雰囲気と風流を表している。中国語の諺では、酒を醸造することは天候と関係があり、酒の名産地も多く見られる。

3.5　人を表す語句

3.5.1　上戸と下戸

（日）SJ76「上戸の額と盆の前」、SJ80「上戸の手弱」、SJ100「大食上戸の餅食らい」、SJ101「上戸本性を現わす」、SJ102「上戸めでたや丸裸」、SJ103「上戸かわいや丸裸」、SJ104「怒り上戸に泣き上戸」、SJ105「腹立ち上戸ねじ上戸笑い上戸」、SJ106「上戸の潰した蔵がある」、SJ107「飲兵衛の節句働き」、SJ44「下戸の粕汁」、SJ81「下戸の手強」、SJ108「下戸の甘好き」、SJ109「酔い醒めの水下戸知らず」、SJ110「下戸と鬼は無い」、SJ111「下戸と化け物はない」、SJ112「下戸の逆恨み」、SJ113「下戸の酒恨み」、SJ114「下戸の肴荒らし」、SJ115「下戸の干吸い酒」、SJ116「下戸の平強い（ひらじい）」、SJ117「下戸も吸うにみてる」、SJ118「下戸の建てたる倉は無く、御神酒あがらぬ神は無し」、SJ119「上戸は毒を知らず下戸は薬を知らず」、SJ120「上戸に餅、下戸に酒」、SJ121「下戸は上戸の被官」

（中）SC73「吃酒的望醉，放债的图利」、SC74「不吃酒的脸不红，不做贼的心不跳」、SC75「喝酒的不知醉，下棋的不服输」、SC76「酒鬼对酒鬼，天下无是非」、SC77「酒鬼见酒脚步收，刀架头颈喝三口」、SC78「不要跟酒鬼啰嗦，不要和懒汉合作」SC79「醉汉不说误事」SC80「醉汉心里明」

3.5.2　男女

（日）SJ18「酒飲む女は湯巻きはずしてでも飲む」、SJ98「酒中国に江戸女、住まい京都に武士薩摩」、SJ122「酒は古酒、女は年増」、SJ123「酒と女と博打には錠おろせ」、SJ124「世の中は酒と女が敵なり」、SJ59「色好まぬ男は玉の杯底無きが如し」、SJ167「陥り易きは酒の海、迷い易きは色の道」、SJ168「とかく浮世は色と酒」

（中）SC25「潞州的酒，女人的手」、SC61「酒不顾身，色不顾病，财不顾亲，气不顾命」、SC133「酒坏君子色坏人，烟伤五脏气伤心」、SC134「避色如避难，冷暖随时换；少饮卯时酒，莫吃申时饭」、SC135「酒色伤人，酒色误事」、SC136「喝酒不醉最为高，贪色不迷是英豪」

3.5.3　家族

（日）SJ28「親の意見と冷酒は後で効く」、SJ125「舅の酒にて相婿もてなす」、SJ126「嫁婿を世話して酒一杯にもならぬ」、SJ40「亭主の心遣いは飯酒雪隠の三つ」、SJ127「毒見三杯亭主の役得」、SJ128「お客三杯亭主八杯」

（中）SC38「好酒好肉待女婿，好粪好肥上秧田」SC81「酒场上无父子」

3.5.4　立場

（日）SJ7「酒の席には狆、猫、婆」、SJ9「酒の酌九分に酌げよ夜八文船七馬六子供五分五分」、SJ121「下戸は上戸の被官」、SJ124「世の中は酒と女が敵なり」、SJ129「客人一杯、手八杯」、SJ130「酒は先に友となり、後に敵となる」、SJ133「長範があて飲み」

（中）SC82「酒席好摆客难请」、SC83「酒席筵间无宾主」、SC84「备席容易请客难，请客容易待客难」、SC85「嘴后思仇人，君子避酒客」、SC86「酒儿不冻，孩儿不冷」、SC90「酒逢知己，话得投机」、SC91「见色不迷真君子，见酒不饮非丈夫」、SC92「酒后失言，君子不怪」、SC77「酒坏君子色坏人，烟伤五脏气伤心」、SC93「酒令如君令」、SC94「酒中不语真君子，财上分明大丈夫」、SC95「君子吃酒沉沉醉，小人吃酒乱癫狂」、SC31「酒肉朋友短，患难夫妻长」、SC96「吃酒朋友千个有，落难朋友半个无」、SC97「酒肉面前朋友假，患难之中朋友真」

3.5.6　賛美と罵倒

（日）SJ131「馬鹿者と酒酔いはよけて通せ」、SJ132「英雄酒を好む」

（中）SC87「酒醉聪明汉，饭胀傻脓包」、SC88「酒助懦夫怒气，钱添笨汉精神」

3.5.7　その他（財産、売買、仕事）

（中）SC21「桂花美酒惹人爱，喜庆宴会少勿来」、SC40「狗肉上不了宴席」

人を表わす語句では、まず、酒を飲む人と酒を飲まない人を取り上げてみると、日本語の諺では、「上戸」と「下戸」が多く見られ、中国語の諺では、同じく「酒を飲む人」と「酒を飲まない人」が見られる。「上戸」と「下戸」の言い方の由来に関し、金子（1983：122）は「昔、清涼殿の殿上の間に伺候した殿上らを、酒の飲める者と飲めない者とに分け、前者を『上の戸』（東）のほうに、後者を『下の戸』（西）のほうに置いたところから、上戸・下戸という語ができたという説が普通に行われている、『経史摘語』によれば、この語はどうも中国から伝わってきたものらしい。酒の飲める者が上戸であり、酒の飲めない者が下戸である」と述べている。また、性別を表わす語句では、「女」が多く取り上げられている。ここでの「女」は男の道楽とつながる「女色」のことである。女に対する軽蔑の考え方が窺える。また、家族関係では、両言語ともに、嫁婿と酒のつながりに言及している。

そして、日本語の諺では、今では、使わない昔の古い言葉「被官」、「長藩」が用いられ、一方、中国語の諺では、今でも、よく使っている「君子」、「丈夫」、「小人」、「朋友」などが用いられている。ただ、昔しか使わず、今は使わなくなるのは「君」だけである。それぞれの意味として、「知己」は普通の友達よりよい関係にある人で、「丈夫」とは昔一人前の男のことをさした。「君子」はまた度胸もあり、品行がよい人のことをさす。「君」はまた皇帝様のことをさす。「小人」は器量も小さいし、高尚な徳もない人である。

また、両言語共に見られる語句は「子供」、「敵」、「客」、「友」である。ただ、同じ語句が使われても、諺における意味は異なっている。両言語の諺では、酒と関わっている人間を悪くイメージするものもあれば、よくイメージするものもある。日本語の諺では、「酒

酔い」と「ばか者」が同じように扱われている諺もあれば、酒を好む人を英雄として扱う諺もある。一方、中国語の諺でも、酒と聡明な人、英雄、酒と臆病者を関連付けている。また、中国語の諺に出ている「君子」(君子)、「朋友」(友達)という語句は出現頻度が高いことから、中国人が「君子」と「友」を重視する程度も証明していると思われる。

つまり、「人」を表わす語句に関しては、両言語の諺では、共に「上戸」、「下戸」、「友」、「女」などの語句が見られる。上戸は下戸を批判することが多い。「友」の場合は、飲み食い関係か真の友情関係か、それは両言語の諺では異なっている。「女」と酒を批判する諺も多く見られる。また、様々な人間を表わす語句からは酒との取り合わせによって、様々な人間模様が窺える。

3.6 抽象及び行為を表す語句

3.6.1 酒席

(日) SJ64「妹背の杯」、SJ65「順の杯」、SJ66「流れの杯」、SJ67「名残の杯」、SJ68「最後の杯」

(中) SC21「桂花美酒惹人爱，喜庆宴会少勿来」、SC40「狗肉上不了宴席」

3.6.2 酒を飲む礼儀

(日) SJ60「杯に推参無し」、SJ134「駆けつけ三杯」、SJ135「酒戻しはせぬもの」、SJ136「酒は三献に限る」SJ137「一献酒は飲まぬもの」、SJ138「初献は慇懃にして三献は親しく九献は生酔い」、SJ139「手酌は恥のもの」、SJ127「毒見三杯亭主の役得」

(中) SC103「无酒不成席，无令不成欢」、SC104「酒令严于军令」、SC105「酒令不分亲疏」

3.6.3 酒飲みの行為

(日) SJ9「酒に上から剣の舞」、SJ75「酒が言わする悪口雑言」、SJ80「上戸の手弱」、SJ140「酒飲みの繰言」、SJ141「大酒遊芸は末の見知らず」、SJ142「酒の終わりは色話」、SJ143「酒飲み根性」、SJ139「手酌は恥のもの」、SJ82「酒飲みは半人足」、SJ123「酒と女と博打には錠おろせ」、SJ144「酒淫の二つは命を鋸挽き」、SJ145「赤きは酒の咎」、SJ146「酒に酔いて泥となる」

(中) SC2「会喝酒，能治病；不会喝，能要命」、SC3「酒能激出心里话，网能捕出水里鱼」、SC4「喝酒不要过量，用牛不要过度」、SC5「不饮过量酒，勿贪意外财」、SC12「冷酒伤命」、SC69「吃酒的望醉，放债的图利」、SC45「秤砣虽小压千斤，酒杯虽小淹死人」、SC91「酒后失言，君子不怪」、SC95「君子吃酒沉沉醉，小人吃酒乱癫狂」、SC106「酒盖三分羞」

3.6.4 下戸の行為

(日) SJ81「下戸の手強」、SJ112「下戸の逆恨み」、SJ113「下戸の酒怨み」、SJ114「下戸の肴荒らし」SJ115「下戸の干吸い酒」、SJ116「下戸の平強い」、SJ117「下戸は上戸の草履取り」

3.6.5 酒の良し悪し

(日) SJ147「酒は百毒の長」、SJ148「酒は気違い水」、SJ149「酒は諸悪の基」、SJ150「酒は諸道の邪魔」、SJ27「酒と朝寝は貧乏の近道」、SJ151「酒極まって乱となる」、SJ152「酒に十の徳あり」SJ153「酒は百薬の長」

（中）SC11「喝冷酒，使官钱，终究是祸害」、SC12「冷酒伤命」、SC17「滚酒伤身，恶语伤人」SC58「酒落欢肠千杯少，酒落愁肠烦恼多」

3.6.6 酒と習慣風俗・行事

（日）SJ40「亭主の心遣いは飯酒雪隠の三つ」、SJ64「妹背の杯」、SJ154「結びの杯」、SJ155「葬礼九つ酒七つ」

（中）SC107「吃过春节酒，锄头不离手」、SC108「吃过端阳酒，家伙不离手」、SC109「吃了重阳酒，夜工不离手」SC110「吃了元宵酒，家什不离手」SC111「吃了正月酒，家具不离手」

3.6.7 酒と宗教

（日）SJ25「朝酒は三杯御神酒のお下がり」、SJ118「下戸の建てたる倉は無く、御神酒あがらぬ神は無し」

（中）SC34「酒肉穿肠过，佛爷当中坐」

酒と取り合わせの抽象及び行為を表す語句の中で、酒席と酒を飲む礼儀に関し、日本語の諺は、具体的に「順」に沿い酒を飲み、別れのときに飲む「名残」の酒と「最後」の酒を述べ、また、酒を飲む礼儀として、「一献」、「初献」、「三献」、「九献」などがある。酒を飲む礼儀に関する語句では、酒席での無礼講をいう「推参なし」、遅れた人に「駆けつけ三杯」の酒を飲ませ、また、贈られたり、借りたりした酒を返礼するという「酒戻し」はしないようにという戒めもある。「三献」は中世頃からの接客の礼法で、大中小の杯で一杯ずつ酒を供することを「一献」といい、それを三回繰り返すことをいう。

一方、中国語の諺は、酒席と酒席での楽しみ方だけを述べている。中国語の諺では、酒席に関する語句として、「酒令」が見られる。酒令は酒を飲む時、雰囲気を楽しくさせ、相手に酒を飲ませるために、発明された中国の遊びである。酒令がないと、「欢」（楽しさ）もなくなり、酒席の雰囲気もおもしろさが欠けることになる。酒令は「军令」（軍隊の命令）より厳しく、酒令をするとき、相手が自分とどういう関係にあったとしても、必ずルールを守らなくてはいけない。そして、上戸が飲みすぎた後の行為に関し、日本語の諺でも中国語の諺でも、「命」、「繰言」、「恥」が見られる。上戸は酒を飲むと、礼儀悪い行動に出ることが多いのである。日本語の諺では、「剣の舞」、「色話」、「半人足」などといったマイナスの意味を持つ語句がよく見られる。また、酒飲みの行為と状態に関し、「失言」、「気狂い」、「溺れて死ぬ」といったマイナスの意味の語句が見られる。下戸の行為に対し、日本語の諺では、「甘好き」、「逆恨み」、「肴荒らし」、「酒怨み」などが見られる。

酒を批判する語句に関し、日本語の諺では、「百毒の長」、「気違い水」、「諸悪の基」、「諸道の邪魔」、「貧乏の近道」、「乱」などが見られる。中国語の諺では、「祸害(災い)」、(災いをもたらす)「祸害」、「伤命（命損ね)」、「伤身（身損ね)」、「愁肠 烦恼多（憂鬱な気持ちになり、悩み事も多い)」などが見られる。逆に、酒を賛美する語句に関し、次のような表現がある。日本語の諺では、「十の徳」、「百薬の長」、中国語の諺では、「欢肠千杯少」などが見られる。そして、酒の良し悪しも機嫌と関係があり、(機嫌がよかった時)

「欢肠」は、酒を飲むと、楽しくなり、（機嫌が悪かった時）「愁肠」は、酒を飲むと、一層悪くなるのである。「習慣風俗」において、日本語の諺では、酒は「妹背」、「結び」など縁結びの時に使われることが分かる。また、客を招待する「心遣い」としても使われている。「産」と「酒」によってもたらされた苦しみが同じような失敗で繰り返されるという指摘は、人間の欲にもかかわる示唆と皮肉を込めた表現を作っている。上戸の額はすぐに真夏すなわち「盆」のように熱くなると言い、下戸は「鬼」と「化け物」との取り合わせで論理的にこの世に存在しないと述べている。

酒の諺に見られる宗教に関する言葉は、「御神酒」と「佛爷」が見られる。「御神酒」は日本の神道では、神前に供える酒である。一方、中国語の諺においては、「佛爷」という茶化している言葉があり、仏様のことをさしている。冗談気味の口調で、酒を飲んだり、肉を食べたりしても、仏様は心の中に座っているのである。また、中国でも、日本でも、酒飲みの気持ちは「ほろ酔い」と「憂い」で表現している。その他、日本語の諺では、酒との取り合わせによって、様々な立場から人間模様を表わしている。

「抽象及び行為」を表わす語句に関し、日本語の諺では、酒席事情を表わす語句、神道教と関わる語句が見られ、中国語の諺では、酒席での遊び、仏教と関わる語句が見られる。また、日本の習慣・風習なども述べられている。下戸を批判する諺が多く見られる。酒も人間関係をうまくする一種の潤滑油であるので、下戸の行為は上戸に批判され、やはり酒が飲めないと、損をすることが諺の中から窺える。

4．まとめ

以上の諺に見られる取り合わせ語句の特徴を日中の対照表に作成してまとめてみると、次のようになる。

表　両言語の「酒」に関する諺に見られる取り合わせ語句の特徴

		日本語の諺	中国語の諺
動植物	動物	家畜類の動物（牛、馬）が両言語の諺に見られる。	
		昆虫、鳥類、哺乳類（海と山の動物）、諺にある動物の種類が多い。	魚の総称、諺にある動物の種類が少ない。
	植物	花の総称が両言語の諺に見られる。	
		季節を表わす代表的な植物（桜、紅葉）が目立つ。ほかの植物も用いている。	季節と関係せず、桃の花が見られる。
衣食住	衣	庶民の普段着る物が両言語の諺に見られる。	
		諺に見られる衣の種類が多い。	諺に見られる衣の種類が少ない。
	飲	「朝酒」、「冷酒」、「焼酎」、「古酒」が両言語の諺に見られる。産地と作り方で名づけられる酒の呼び名が見られる。	

		地域と地方名で呼ばれる酒の名がある。酒の製造工程で名づけた酒の名がある。	酒の置かれる時間で名づけた酒の名が多い。人間の気持ちを表わす酒の名がある。
	食	米と果物が両言語の諺に見られる。ただ、果物の種類が異なる。また、両国民に普段よく使われる調味料も用いられている。	
		海の魚料理（刺身、蛸など）が多い。	家畜の肉料理（牛肉、犬肉）が多い。
	器具	「徳利」、「杯」、「箸」が両言語の諺に見られる。ただ、呼び名が異なる。そして、違った器具も両言語の諺に現れている。	
	住	部屋にある各部分の名称が窺える。	諺にあるのは部屋全体である。
人体		「口」、「心」、「腹」、「手」が両言語の諺に見られる。比喩が多用されている。	
		人体の各部位が諺に平均的に見られる。	頭部と胴体部が全体的に割合多く見られる。
時空		異なる気候現象が見られる。両言語の諺に共通なのは「露」である。 「酒屋」が両言語の諺に見られる。	
		日本の特色のある「歳暮」が見られる。酒の名産地を詳しく述べていない。	中国しかない旧暦の「腊月」（十二月）が見られる。酒の名産地が詳しく書かれている。
人		「上戸」、「下戸」、「友」、「女」が両言語の諺に見られる。	
		人の類型を表わす語句が中国語の諺のほうより少ないが、「上戸」と「下戸」が多い。	酒と取り合わせで様々な人を表わす語句が多い。
抽象及び行為		酒の良し悪しと酒に酔った後の礼儀の悪さを表わす語句が多い。	
		酒席事情を表わす語句が多い。神道教の神と関わる語句、風習に関する酒との取り合わせ語句もある。	酒席事情を表わす語句が少ない。酒席での遊びを述べている。仏教と関連のある「お仏様」が見られる。

また、日本語の「酒」に関する諺に見られる取り合わせ語句の使用頻度（これに関しては稿を改めることにする）は、「酒」の諺に人体と関わる語句は5%しかないが、それに対し、中国語の「酒」に関する諺に見られる取り合わせ語句の割合は、人体と関わる語句が21.2%を占めている。このような大きな差から、中国人は酒が人体に及ぼす影響や酒によって引き出された比喩の中では、人間の身近にある体という取り合わせがよく使われ、酒と人体の密接な関係で直感的な表現の仕方が好まれていることが窺える。

逆に、日本語の「酒」に関する諺の中で、日常生活に欠かせない衣食住が占めている割合が中国語の「酒」に関する諺に示されている割合がより高いことから、日常生活の中で、中国人より日本人のほうが「酒」がさらに生活に浸透しているのではないかと思われる。だから、同じ「酒」に対しても、物事を見る立場が違うことなどから、表現の仕方や、語られている諺の内容も異なっている。これは両国の生活習慣や発想の違いに関係があると思われる。

参考文献

王　湘仁（2001）『中国飲食文化』鈴木博　訳　青土社

岡田　哲（2003）『たべもの起源辞典』東京堂

温　端政 主编（2004）『中国谚语大全』上海辞书出版社

金子武雄（1983）『日本のことわざ』（全4巻）、（一）評釈、（二）続評釈、（三）評論（1983）、（四）概説・講説（1983）海燕書房

金田一春彦（1957）『日本語』岩波書店

尚学図書編（1981）『故事・俗信諺大辞典』小学館

関本　至（1983）「現代ギリシア方言に見る諺の修辞法」『レトリックと文体』古田敬一（編）丸善株式会社pp.1-30

永山久夫・川嶋宏（1988）『日本の粋を伝えることわざ　酒　ことばの民俗学6』創拓社

西谷裕子（2005）『たべものことわざ辞典』東京堂

林　八龍（2002）『日・韓両国の慣用的表現の対照研究―身体語彙の慣用句を中心として―』明治書院